



薬師寺小だより

平成28年12月

下野市立
薬師寺小学校長
鈴木一恵

薬小っ子スタンダード
当たり前のことを
当たり前に行ける子に



やさしく

くつ揃え
家族のお手伝い



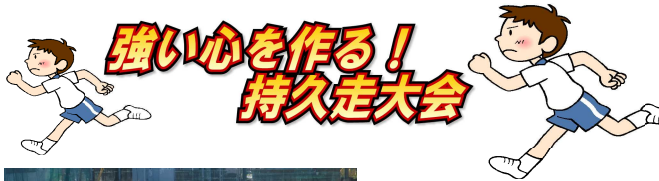
かしこく

家族との会話
親子読書



たくましく

家族と一緒に
正しい食習慣



11月30日に持久走大会が行われました。参加者全員、颯爽とゴールすることができました。

実施に際しまして、PTA 体育部の皆様をはじめ、たくさ

んの保護者様、ご家族様に御協力御支援をいただきありがとうございます。さらに、試走から本番までの間、温かく見守って下さった地域の皆様にも感謝いたします。

持久走大会においても薬小 PTA 並びに地域の協力体制の素晴らしさを実感いたしました。お陰様で校長としましてはゴールしてくる児童一人一人を迎えて声を掛けることができ、感動もひとしおでした。

持久走という苦しい競技だからこそ味わうことのできる達成感を体験し、強い心を育てる事ができたと思います。

残念ながら体調を崩し本番に出場できなかったお子さんも1割弱おりましたが、約1か月前からこつこつと練習してきた成果はどの子も変わりません。みんなよく頑張りました。

持久走大会の記念に「薬師寺小」名入りの鉛筆を贈呈しました。大会に向けて練習した強い心を思い出して学習のラストスパートも頑張っ

て欲しいと思います。低学年には記録証と一緒に渡します。次は縄跳び運動で体作りをします。冬休みの縄跳び練習への応援もどうぞよろしくお願

南河内一周駅伝競走大会で先生も感動のお返しを!



旧南河内町を一周するという全国でも数少ない歴史ある大会に本校職員男

士6名も参加しました。子供たちからももらった感動をエネルギーに替え無事完走しました。

薬師寺スポーツの児童は、小学生の部で堂

堂の4位でした。日頃の練習の成果ですね。



廃品回収でも大変お世話になりました。続々と車で運ばれる光景に地域の方の温かさを感じました。



11月28日国分寺公民館で第6回「家族のきずな」エッセイ表彰式（小山モラロジー研究所主催）が行われました。総数1,080作品の中から本校児童の2作品が入賞し、壇上で朗読を披露しました。誰の心にも染みる素晴らしい作品でした。家族を思う気持ちはこれぞ良い事はありませんね。家族だから喜びもあるし後悔もします。私も昨年他界した母との日々をあれこれ思い出し胸がつまりました。小学生に教えられたような気がしました。

下野市長賞 「家族との時間」

6年

私の家族は、六人です。今年の二月までは、七人だったけれど、ひいおばあちゃんが死んでしまいました。おばあちゃん

公益財団法人モラロジー研究所賞 「おばあちゃんの願い事」

5年

私の家は、五人家族です。家には今、九十才になるおばあちゃん

入選作品にも2作品が選ばれました。

- ・「十三人家族」 5年
- ・「あたり前の生活」 6年

本校では今年もたくさんのお応募作品があり、ご家族のきずなをより強くすることができたことと思います。

ご協力ありがとうございました。



12月10日世界人権デーにちなみ、本校では「自分も相手も大切にできる優しい子供を育てる」ことを願って12月5日からの一週間は「人権週間」としました。

人権に関する標語作りやDVDの視聴、さらに8日には人権擁護員さんをお招きして人権集会を開催し、御講話や児童の人権に関する作文発表を行いました。

子供たちは大人と同じように、喜びや悲しみ、感動を繰り返しながら生活しています。様々な思いの中で、子供たちは家族や教師、地域の人々からの支援を受け、人と人との好ましい在り方や生き方を学んでいます。

発表してもらった6年生の作文「相手を認め合う」は、小学生の視線で切々と読み手に語りかけています。さらに、明るく前向きに対策方法も綴られており大変感心しました。先入観をもって相手を見てしまうと、自分で交友関係を狭くしてしまうことになるのです。ご家族で是非一緒にお読みになり、友だちとの様子など話題にしてみてもどうでしょうか。

学校ではこの機会に教育相談を行い、一人一人とじっくり話せる時間を設けています。

「相手を認め合う」

6年

「お友だちを手伝おうと思うんだ。」

「いっしょにやるよ。何をやればいいの。」

何でも話し合える友達がいることはとても幸せなことです。私の周りには、おもしろい人、やさしい人、音楽、スポーツ、勉強、図工などが得意な人、苦手な人、マイペースな人、泣き虫な人、リーダーシップがある人、いろいろな性格の人がいます。

私はそんな人たちに囲まれて楽しい生活が送れていると思います。そんな中で、

「○○さんは好きだけど△△さんはいやだ。」

このような会話を最近よく聞きます。学校では見た目や性格などで、友達と仲良くなれずに、一人になってしまう人がいます。でも、みんなが、だれがいやだとか思わなければ、学校やクラスで一人になってしまう人は減ると思いますが、それはとても難しいと思います。

そこで、私はみんなが楽しく生活するために簡単にできることを考えてみました。

一つ目は、「考え方を変える」です。あの人は付き合いづらそうと思っても、まずは本人と話してみることが大事だと思います。話して相手をよく知る事が大切でしょう。話しかけるのが難しいと感じる人は、相手を観察してみると良いと思います。

二つ目は、「相手を思う」です。もしも、友達になった人が自分にとっていやなことをしても、うらで悪口を言うのではなくて、友達として相手の悪い所を教え合う、そして、直すきっかけを作るといいなと思います。

三つ目は、「先生や親しい人に相談する」です。私もこのようなことがあった時、担任の先生に相談しました。すると、先生は真剣に話を聞いてくれてヒントを出してくれました。先生と話してスッキリ解決できました。先生にはとても感謝しています。だから一人で悩んだり悪口を言わないで、まずは相談すると良いと思います。

四つ目は、「自分自身を見直す」です。人の事ばかりではなく、自分を見つめる事も大切です。自分の良い所、悪い所をまず考えてみる事が、相手を尊重することにつながります。相手の性格、個性を認めることができると私は思います。

このようなことを心にとめておくことで、家族、友達、学校、社会の中でみんなが笑顔になれると思います。



御高齢者の理解 ～4年生福祉体験～

人権教育では様々な人々を理解します。4年生は総合学習で高齢者について学びました。手に軍手、目にゴーグル、耳にヘッドホン、体におもり等を着けて疑似体験しました。



お年寄りには白内障になったり、耳が聞こえにくくなったり、物がかみにくくなったり大変だなあと感じました。

高齢者の体験で階段の上り下りのつらさや字の読みづらさ、手や足にあまり力が入らないということを知り、高齢者の方はとてもつらいということが分かりました。

高齢者の方を見かけたら優しくしたいと思いました。



だれかのためになることをそっと

人権週間に読みたい本「花さき山」。山菜をとりに行き山ンばに出会ったあや。優しいことをすると美しい花がひとつ咲くというお話。

主人公あやは10歳。「花さき山」の存在は、どれほどあやを勇気づけたことでしょうか。「花さき山」は自分を見ていてくれる・・・と思うだけで、あやの「がまん」は自己犠牲でなく、無償の愛に変わることができたのではないのでしょうか。幼い妹のために、祭りの着物を我慢した切なさも、「花さき山」はわかってくれていた・・・。心に残る感動の場面です。

さて「花さき山」はどこにあるのでしょうか。自分の心の中かもしれません。見守って下さるご家族の心の中かもしれません。友達や地域の人の心の中かもしれません・・・。



だれかの心がふと温かくなったとき、たぶんそれは、心の中の花さき山にそっと、花が咲いたからではないのでしょうか・・・。

1年生の心にも花さき山が・・・ 「人権に関する標語」より

- ・ゆずりあう心でみんな ぼっかぼか
- ・「だいじょうぶ？」その一言が大きな一歩
- ・「ありがとう」心も体もあつたかい

来年の干支は酉。サルとイヌの仲が悪く、仲裁役に穏やかなトリが選ばれたとか?! 酉は収穫や親切を意味するそうです。良いお年を!